

せいけん
詩集

第百二十六篇

作：近藤せいけん

「湖畔の石碑」

箱根の芦ノ湖畔に建つ

詩人 勝承夫

「若い豹は春の象徴」

で始まる「駅伝を讃えて」の詩碑

毎年一月二日 三日

若き精鋭を見守っている

湖畔の四季に佇む

湖を渡る 風に同化して

自然の一部になっている

ブロンズ像の台座に

箱根大学駅伝の

歴代優勝校の銘板がある

毎年 一校だけが

その栄誉に輝く

東京から この箱根の地まで

往復駅伝 また新春に

走り人のドラマが生まれる

ブロンズ像 襷をかけて

今日も 静かに湖畔に佇む